

# GIS NEWS LETTER

地理情報システム学会ニュースレター

第85号

発行日 ● 2013年3月28日  
発行 ● 地理情報システム学会

## 目次

新年度を迎えるにあたって -----	1p
2013年度 GISA学会賞募集 -----	1p
学会からのお知らせ -----	2p
第21回研究発表大会 報告 -----	2p
委員会報告 -----	3p

支部報告 -----	4p
分科会報告 -----	4p
代議員周辺での動向 -----	5p
学会後援行事等のお知らせ -----	5p
事務局からのお知らせ -----	5p

## 新年度を迎えるにあたって 一地理情報および関連用語一

地理情報システム学会会長 浅見 泰司

地理空間情報活用推進基本法が2007年に制定され、すでに6年になろうとしている。この法律では地理空間情報の活用を推進するための基本的な原則を定めている。

この法律の中で、地理空間情報とは、空間上の特定の地点又は区域の位置を示す情報（位置情報）とその情報に関連付けられた情報（属性情報）からなるものと定義している。この定義に近い言葉としては、地理情報および空間情報があり、それらが入り乱れて使われているのが現状である。

各用語の英語訳は、地理空間情報：geospatial information、地理情報：geographical information（もしくは、geographic information）、空間情報：spatial informationとなり、それぞれ異なる。2013年2月10日現在でgoogle完全一致検索してみると、geographical information 808万件、geographic information 1140万件、spatial information 181万件に対し、geospatial informationは77.5万件とgeospatial informationの利用頻度は低い。件数の数は、地理情報→空間情報→地理空間情報という歴史的な変遷をそのまま表している。

地理情報とは地球表面を基礎とした位置情報を、空間情報とはより抽象化された位置情報を用いている感じがある。例えば脳内位置情報は空間情報とは言えても、地理情報とは言えない。地理空間情報も基本的には地球表面を基礎とした位置情報を表しているが、やや衛星測位技術を意識している印象がある。

当学会では最も伝統的な地理情報という用語を用いており、実際に、地球との相対的な位置に関する情報を扱うものがほとんどであるから、妥当な使用方法である。ただ、法律とし

て地理空間情報という用語を定義し、法律自体が社会的に大きな影響を与えるため、当学会にとって重要な概念である用語についても関心を持ち、必要に応じて適切な対応をとることが重要だろう。

### 【2013年度 GISA学会賞募集】

【学会賞委員会 委員長：関根 智子】

2013年度地理情報システム学会賞の募集を行います。

応募資格者および提出物の内容、受賞者選考・決定方法は以下のホームページでご確認ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

自薦、他薦を問わず、たくさんのご応募をお待ちしております。

選考結果は9月末日までに応募者各位にご連絡いたします。また、受賞者は、本年10月26日（土）～27日（日）に慶應義塾大学三田キャンパスにて開催される第22回研究発表大会で表彰されます。

募集部門：

「研究奨励部門」（本年3月末日の時点で35歳以下の者）

「学術論文部門」

「ソフトウェア部門」

「教育部門」

「著作部門」

応募期限：2013年7月15日（月）

提出先： 地理情報システム学会事務局

## 【学会からのお知らせ】

### ■ 2013年度一般社団法人地理情報システム学会定時 社員総会のご案内

社員総会で議決権を有するのは代議員の方のみですが、他の正会員の方も出席し意見を述べていただくことができます。

日時：2013年5月26日（日）14:30～16:00（予定）

場所：東京大学工学部14号館1階141番教室

東京都文京区本郷7-3-1

### ■ 日本地球惑星科学連合2013年大会のご案内

地理情報システム学会の加盟する日本地球惑星科学連合の大会が、5月に開催されます。当学会が運営するセッションは以下のとおりです。

(1) GIS（英語）

(2) 地理情報システム（日本語）

他にも地理学、地図学、測量学などを対象としたGISと関連が深いセッションも開催されます。

会期：2013年5月19日（日）～24日（金）

会場：幕張メッセ国際会議場（千葉市美浜区中瀬2-1）

事前参加登録（当日登録より割安）：

～2013年5月7日（月）17:00

URL：<http://www.jgpu.org/meeting/>

### ■ 2013年京都国際地理学会議（IGU2013）のご案内

「地球の将来のための伝統智と近代知」をメインテーマに掲げ、学会発表や展示、国内外の巡検も予定されています。当学会が運営するジョイント・セッションのほか、地理情報科学や地理システム・モデリングのコミュニケーションのセッションなどGISや地理情報科学と関連が深いセッションも多数開催されます。

会期：2013年8月4日（日）～9日（金）

会場：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）

参加登録：早期～2013年4月10日（水）

標準～2013年7月3日（水）

当日/2013年7月4日（木）以降

URL：<http://www.igu-kyoto2013.org/>

### ■ 2013年度学術研究発表大会のご案内

2013年度地理情報システム学会研究発表大会は、**10月26日（土）、27日（日）**の両日、**慶應義塾大学（三田キャンパス）**にて開催します。発表申し込みの手続き方法など詳細は、決まり次第、メールニュースやHPでご案内いたします。

（発表申込スケジュール）

アブストラクト提出：

7月1日（月）～7月15日（月）正午必着

講演論文集用原稿提出：

7月1日（月）～8月30日（金）正午必着

## 【第21回学術研究発表大会 報告】

### 特別セッション(7) :

日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言と学校におけるGIS教育 オーガナイザー：碓井 照子

この特別セッションは、GIS学会の学校教育部門の表彰式の後に行われた。高等学校におけるGIS教育の推進は、地理空間情報社会におけるリテラシー教育として非常に重要である。日本学術会議が、2011年8月に地理基礎・歴史基礎の必修化に関する提言をしたが、その中で、地歴科教育におけるGIS教育の重要性が指摘されている。日本学術会議会員でこの提言作成のメンバーである碓井が、まず「日本学術会議の地理基礎・歴史基礎必修化の提言と学校におけるGIS教育」について発表した。この提言の中では、高校教育におけるGIS教育を位置づけ、大学教育だけでなく、学校教育においてもGISの基礎的知識や技能の育成を義務づけている。人材育成においては、学校のカリキュラムにおける児童・学生の発展段階を踏まえたGIS教育の在り方が重要であると指摘した。次に日本学術会議の地理基礎・歴史基礎の提言を受けて、学校教育におけるGIS支援を実施している大学院生の活動について、仙石・田村が、「eDesignによる現場教師へのGIS支援活動」を発表し、最後に大島が、「授業用GISデータリンク」について発表した。

### 2012年度 初等中等教育における

GISを活用した授業に係る優良事例表彰

2010年度より地理情報システム学会教育委員会を中心となり始めた本事業は、3回目を迎える過去最多の応募件数となった。充実した内容の取り組みが多く、審査委員会において厳正な審査の結果、3つの賞が下記の各個人またはグループに贈られることとなった。表彰式は、2012年10月14日（日）午後、広島修道大学にて、地理情報システム学会第21回学術研究発表大会の「特別セッション（7）」の中で行われた。



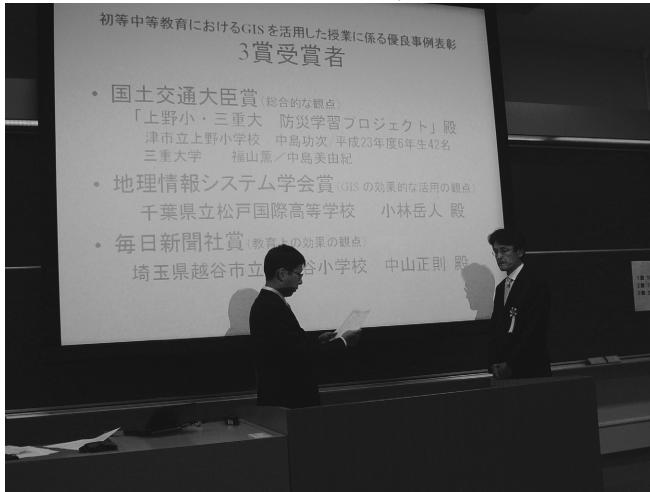
優良事例表彰受賞者および授与者

## ◆国土交通大臣賞（総合的な観点）

「上野小・三重大 防災学習プロジェクト」 津市立上野小学校 中島 功次/平成23年度上野小学校6年生42名、三重大学 福山 薫/中島 美由紀

児童が主体となって防災マップを作成する実践的な素晴らしい取組みである。成果を教室内だけでなくインターネットや地域での学習会で公表しており、他の学校や教師などへの波及効果や、地域との連携効果も高いことも評価される。PDFのレイヤー機能を利用した地図は、稼働環境を選ばず利用できる点でも優れている。防災教育へのGISの活用事例として全国に広げる価値のある、総合的に優れた取組みである。

### 優良事例表彰（国土交通大臣賞・中島功次氏他）



## ◆地理情報システム学会賞（GISの効果的な活用の観点）

小林 岳人（千葉県立松戸国際高等学校）

地図学習の中でも生徒が形状をとらえるのが難しい等高線について、GISの立体表示機能をうまく活用しており、ユニークかつ効果的な事例である。ラスタデータのベクトル変換というGISの機能を理解させている点も評価できる。指導と評価の一体化を意識した評価用の問題例も合わせて提示されているのは、他の応募事例にない長所である。



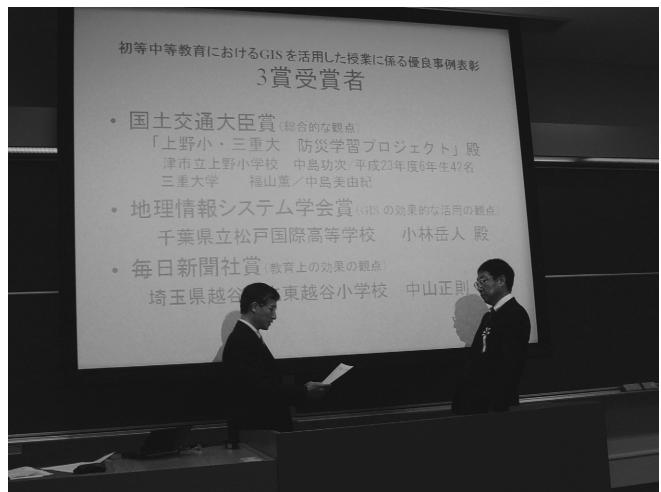
### 優良事例表彰（地理情報システム学会賞・小林岳人氏）

## ◆毎日新聞社賞（教育上の効果の観点）

中山 正則（埼玉県越谷市立東越谷小学校）

平易ながら工夫された明快な内容で、低学年児童（小学3年生）の興味を引き出すことに成功した。フィールドワークで収集したGPS軌跡を使用して、児童に位置データの重要性を理解させている点が高く評価できる。多くの機会で実践的成果を世に問うており、GISの普及という観点でも継続的に大きな貢献をしてきている。教育上の効果が非常に高い優れた取組みである。

### 優良事例表彰（毎日新聞社賞・中山正則氏）



## 【委員会報告】

### ■ 教育委員会

### 【委員長：酒井 高正】

「2013年度初等中等教育におけるGISを活用した授業に係る優良事例表彰」の事例募集（予告）

地理情報システム学会では、初等中等教育現場においてGIS（地理情報システム）を実践的に活用した授業の普及・展開の契機とするため、授業において先導的な取組みを実践している教員を対象とする表彰制度を2010年度に創設し、2012年度まで3回にわたり優良事例を募集し表彰事業を行ってまいりました。2013年度も同様の趣旨で優良事例を募集する予定しております。概要（予定）は下記のとおりですが、詳細は後日発表する募集要項にて発表いたします。

#### 【応募資格】

日本国内の初等中等教育現場において、GISを実践的に活用した授業に取り組んでいる教員等（※）の個人又はグループ。（学会員に限りません。）

※ 教員等：初等中等教育現場において、GISを実践的に活用した授業に取り組んでいる教員以外の方も含みます。

#### 【募集期間】

2013年7～8月頃の予定です。

#### 【選考方法】

地理情報システム学会、毎日新聞社、国土交通省、文部科学省から構成する審査委員会による審査の上、選考予定です。

#### 【表彰】

以下の各賞の表彰を行う予定です。国土交通大臣賞、地理情報システム学会賞、毎日新聞社賞。

#### 【実施団体等（予定）】

GISA-NL No.85 (2013/3/28)

主催：地理情報システム学会、共催：毎日新聞社、後援：国土交通省国土政策局・日本地理学会・人文地理学会・日本国際地図学会、協賛：ESRI ジャパン株式会社。

## ■ 広報委員会

### [委員長：三原 正一]

2012年度の実施事項

- 1) 学会ホームページの管理（藤井、野中）
  - ・ 事務局からの更新依頼への対応（2週間に1回）
  - ・ アクセス数調査を実施
- 2) 会報（ニュースレターの編集・発行）（畠山、青木、谷口）
  - ・ 81号（3/30）、82号（6/30）、83号（9/30）、84号（12/30）の発行
- 3) 雑誌 GISNEXT “Next Square”への記事投稿
  - ・ 39号（2012/4/25号）、40号（2012/7/25号）、41号（2012/10/25号）、42号（2013/1/25号）への投稿
- 4) SNSの活用（会員サービス向上策）（浅野）
  - ・ GIS学会 Facebook ページの開設、Twitter 投稿からの転載設定、ルール策定
  - ・ 2012/7より、Facebook を活用しての情報配信を実施

#### Facebook 活用のお知らせ

<http://www.facebook.com/gisajapan>

GIS学会の公式Facebookページはご覧になられたでしょうか。このFacebookページは、事務局からの案内はもちろん、学術大会の概要や、GISに関する各種セミナー等のイベント情報も案内しています。Facebookアカウントをお持ちでない方もご覧いただけますが、アカウントを取得の上、このページの「いいね」をクリック（購読）していただければ、貴方のFacebookアカウントに新着情報を自動的に通知します。現在200名ほどの方が購読されています。

さらに、情報を得るためだけでなく、セミナー開催等の情報発信のツールとしてもご利用いただけます。操作は簡単、イベント概要またはイベントURLをページの投稿欄に投稿していただければ、担当者がFacebookページにアップします。どうぞご活用ください。

## ■ GIS 資格認定協会

### [幹事長：太田 守重]

昨年末で、既得権申請期間が終了するに伴い、12月には多くの皆様が申請を出されました。この記事を執筆している2月中旬現在、鋭意、審査を行っているところです。ただし、審査委員の数に限りがあり、また急に増員をしても、かえって審査が混乱する可能性がありますので、申請を出された皆様におかれましては、しばらく猶予をいただきたく、よろしくお願い致します。

GISCAでは、GIS名誉上級技術者資格の贈呈についても準備を進めておりますが、上記のような事情もあり、準備が遅れ気味になっております。年度内には審査委員会を開催したいと考えております。

とはいものの来年度は、社会的に意義のある事業への協力などもできれば、と考えているところです。有資格者各位および関係者の皆様のさらなるご協力をお願い致します。

## 【支部報告】

### ■ 東北支部

東北地方で活動をされている地理空間情報に関わる研究

GISA-NL No.85 (2013/3/28)

者・実務担当者間の情報交換・交流の場を創出することを目的に、本年度初めての試みとして「東北支部研究交流会」を、2012年12月11日(火)に東北大学片平キャンパスにて開催いたしました。会員を中心に広く話題提供を求めた結果、大学・研究所・地方自治体の8名の方からご講演いただき、震災関連の被害状況把握に関わる取り組みや、自然環境・社会経済データの解析を中心に、多様な発表が行われました。現在、東北支部は会員数60名程度と小所帯ですが、今後もこのような取り組みを通じて会員間の交流を活性化していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

上記イベント開催のほか、関連団体との連携・交流活動として、第9回観光情報学会全国大会（テーマ「大震災からの観光復興」、2012年5月25日(金)～26日(土)、岩手県立大学アイナキャンパス）の後援、日本福祉のまちづくり学会東北支部等と復興支援状況に関する情報交換を行いました。

## ■ 中部支部

### [奥貫 圭一]

中部支部では、2012年11月15日(木)午後3:00より、名古屋大学環境総合館3F講義室1にて、セミナー『QuantumGIS入門』を開催いたしました。このセミナーでは、アジア航測株式会社の平松孝晋氏を講師としてお招きし、フリーオープンソースGISソフトウェアとして普及しつつあるQuantumGISについて、そのダウンロードの方法、機能の概要、応用可能性など、GISの基礎的事項を交えながらわかりやすく解説して頂きました。当日は、GIS学会会員を含む20名近くの方々にお集まり頂きました（民間の方2名を含みます）。参加者のほとんどが学生の皆さんで、若い方々にGISの最新事情を知って頂けて良かったと考えております。ここに、ご協力いただきました皆さまへ御礼申し上げます。

## 【分科会報告】

### ■ ビジネス分科会

### [平下 治]

「ビジネスGIS活用事例研究会2012」開催

日時：2012年10月19日(金) 18:30～20:30

場所：東京大学本郷校工学部14号館144号教室

発表内容：

民間企業のGIS実務者によるマーケティング現場のGIS活用事例の発表

事例①：(株)朝日オリコミニ古屋 営業企画 平田圭氏  
ターゲットエリア分析とオリジナル戦略立案事例

事例②：(株)カーブスジャパン 営業推進部 山木現一氏  
FC企業支援のための会員獲得と会員管理GISのWeb化

事例③：(株)メガネトップ 店舗開発本部 土居義信氏  
出店戦略におけるGIS活用成果及び今後の取組み

事例④：(株)P&P 代表取締役 松下雅憲氏  
飲食チェーン店の店長教育にGISを活用

事例⑤：東大マイクロジオデータ研究会  
秋山祐樹氏・仙石裕明氏  
ゼンリン建物ポイントデータ、商業集積データ等の利用によるマイクロジオデータの開発及び活用への産学共同の取り組み

### ■ 防災GIS分科会

### [畠山 満則]

総合防災・災害リスク軽減に関する国際会議であるIDRIM 2013 Conferences (2009年の京都開催時には地理情報システム

ム学会が後援)が2013年9月4-6日に英国ノーサンブリア大学で開催されます。ご興味のある方は下記のホームページをご覧ください。

[http://idrim.org/?page\\_id=315](http://idrim.org/?page_id=315)

## 【代議員周辺での動向】

### ■ Facebook 自治体 GIS 活用推進グループ [浅野 和仁]

自治体 GIS の活用推進に関するネットワークをご紹介します。このグループは、自治体 GIS に関する話題や、自治体 GIS を取り巻く諸問題について、産官学という垣根を越えて情報交換するために設立しました。きっかけは平成24年2月に京都(2/1~2)と岐阜(2/8)で開催された国土交通省主催の「防災業務における GIS 高度活用人材育成プログラム」で、このセミナーに参加したメンバーを中心にFacebookを利用した自治体 GIS の相談窓口として開設し、自治体 GIS に関する各種情報の提供と自治体 GIS の課題等について意見交換を行っています。

全国の自治体関係者だけでなく教育研究機関、民間企業、NPOなどの様々な参加者による活発な意見交換を行っています。

参加いただくにはFacebookアカウントを取得した上で、当グループのページにて参加申し込みが必要です。参加審査等は行いませんので、お気軽に覗いてみてください。

<http://www.facebook.com/groups/JLGGIS/>



親睦会の様子

## 【学会後援行事等のお知らせ】

### ■後援■ 第9回 GIS コミュニティフォーラム

主催: ESRI ジャパンユーザ会

会期: 2013年5月30日(木)~31日(金)

会場: 東京ミッドタウン

詳しくは… <http://www.esrij.com/>

## 【事務局からのお知らせ】

### ■ 2013年度年会費納入のお願い

今号は、2月末日までに口座振替用紙の返送が無い会員の方々に、2013年度分(2013年4月1日~2014年3月31日)年会費の郵便振込専用用紙を同封しております。

納入期限は4月30日(火)ですので、お早めにお手続きください。期限に遅れますと、6月発行のニュースレター86号

および『GIS-理論と応用 Vol. 21-No. 1』の送付が停止されるほか、ホームページの会員専用コンテンツの閲覧が出来なくなります。

### ■ 学生会員さんへ 学生証のコピー提出のお願い

4月以降も学生の方は、新年度の学生証のコピーを事務局までご提出ください。4月30日(火)必着、FAXまたはメール添付でお願いします。期日までの提出が無い場合は、2013年度より年会費は正会員と同額(口座引落し9,000円、郵便振込10,000円)となります。

- ※ 昨年提出された方も、再度ご提出ください。事務局で確認後、シュレッダー裁断しています。
- ※ コピーは「氏名」「発行者」「有効期限」が分かるようにとってください。
- ※ 学生証が4月中に発行されない場合は、その旨、事務局までご連絡ください。

### ■ 年会費口座振替ご利用の方へのお願い

2013年度分(2013年4月1日~2014年3月31日)年会費の口座引き落とし日は6月28日(金)です。口座残高のご確認をお願いいたします。

年会費は正会員9,000円、学生会員4,000円です。

### ■ 変更届提出のお願い

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ます。

<https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

### ■ 学会ホームページやメールニュースへの

#### 掲載ご希望の方へ

学会ではイベントや公募等のお知らせを、ホームページに掲載する他、個人会員向けメールニュースでも配信しています。学会ホームページのトップページでもご案内していますので、そちらを参照の上、事務局までお申込み下さい。現在、掲載料等は無料です。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html>

また、フェイスブックやツイッターでもご案内することができます。こちらはもう少し肩の力を抜いたものです。掲載ご希望の方は、事務局までお問い合わせください。

### ■ 会議の場所をご提供します

分科会(SIG)、委員会、支部など、学会活動に関すること会議をしたいが場所が無い…という方は、事務局までお申し出ください。事務局が入居している学会センタービルの地下に、貸会議室があります。予約制ですので、お早目にお問い合わせください。

料 金: 無料

時 間: 月曜日から金曜日の10:00~17:00

注 意: インターネットのご利用は出来ません。

2013年2月末現在の個人会員1369名、賛助会員70社

## 賛助会員

(2口) NTTタウンページ㈱

(1口) アイエニウェア・ソリューションズ㈱、アクリング㈱、朝日航洋㈱、アジア航測㈱、いであ㈱、㈱インフォマティクス、ESRIジャパン㈱、NTT空間情報㈱、愛媛県土地家屋調査士会、応用技術㈱、大阪土地家屋調査士会、オートデスク㈱、㈱オオバ、かごしまGIS・GPS技術研究所、㈱かんこう、関東甲信越東海GIS技術研究会、㈲岐阜県建設研究センター、九州GIS技術研究会、協同組合ぐびき野地理空間情報センター、近畿中部北陸GIS技術研究会、㈱こうそく、幸陽測量設計㈱、国際航業㈱、国土情報開発㈱、㈱古今書院、寿精版印刷㈱、GIS総合研究所いばらき、㈱GIS関西、ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱、㈱JPS、㈱ジオテクノ関西、㈱ジオプラン、㈱ジャスマソフ、㈱昭文社、㈱ジンテック、㈱数理システム、㈱ゼンリン、㈱谷澤総合鑑定所、玉野総合コンサルタント㈱、中四国GIS技術研究会、テクノ富貴㈱、東北GIS技術研究会、㈱バーン、内外エンジニアリング㈱、長野県GIS協会、いのうえGIS協議会、日本エヌ・ユー・エス㈱、日本情報経済社会推進協会、日本スーパー・マップ㈱、㈲日本測量調査技術協会、日本土地家屋調査士会連合会、㈲日本地図センター、㈱シフィックコンサルタンツ㈱、㈱パスコ、東日本総合計画㈱、北海道GIS技術研究会、㈱マップクエスト、㈱松本コンサルタント、三井造船システム技研㈱、㈱三菱総合研究所、三菱電機㈱、ヤフー㈱、㈲リモート・センシング技術センター、自治体会員：(1口) 大阪府高槻市役所、大阪府豊中市役所、経済産業省特許庁、総務省統計局統計研修所、長野県環境保全研究所、福岡県直方市

## 学会分科会連絡先一覧

●自治体：青木 和人（京都府宇治市）

事務局：浅野 和仁（大阪府富田林市 Tel 0721-25-1000)  
E-mail : helicobacter\_ysfh@hera.eonet.ne.jp

●空間IT：有川正俊（東京大学空間情報科学研究センター Tel 04-7136-4291)

E-mail : arikawa@csis.u-tokyo.ac.jp

●ビジネス：高阪宏行（日本大学 Tel 03-3304-2051)

E-mail : kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp

●防災GIS：畠山満則（京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333)

E-mail : hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp

●土地利用・地価GIS：碓井照子（奈良大学）

事務局：西端憲治（㈱セイコム Tel 0721-25-2728)

E-mail : totiriyo-sig@seicom.jp

●時空間GIS：吉川耕司（大阪産業大学 Tel 072-875-3001)  
E-mail : yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp

●地図・空間表現：森田 喬（法政大学 Tel 0423-87-6270)  
E-mail : morita@k.hosei.ac.jp

●セキュリティSIG：川添博史（特定非営利活動法人GIS総合研究所）

事務局：国司輝夫（特定非営利活動法人GIS総合研究所 Tel 06-6464-7077)  
E-mail : info@gissoken.org

●自律分散アーキテクチャ：藤田晴啓（新潟国際情報大学 Tel 025-239-3753)  
E-mail : fujita@niiis.ac.jp

●FOSS4G分科会：Venkatesh Raghavan（大阪市立大学）  
連絡先：嘉山陽一（朝日航洋㈱ TEL049-244-4032)

E-mail : youichi-kayama@aeroasahi.co.jp

## 地方支部の連絡先一覧

<北海道支部>

支部長：北海道大学 橋本 雄一  
Tel : 011-706-4019, E-mail : you@chiril.let.hokudai.ac.jp

<東北支部>

支部長：岩手県立大学 阿部 昭博  
Tel : 019-694-2562, E-mail : abe@iwate-pu.ac.jp

<北陸支部>

支部長：新潟大学 牧野 秀夫  
Tel : 025-262-6749, E-mail : makino@ie.niigata-u.ac.jp

<中部支部>

支部長：名古屋大学 奥貫 圭一  
Tel : 052-789-2233, E-mail : nuki@lit.nagoya-u.ac.jp

<関西支部>

支部長：大阪工業大学 吉川 真  
連絡先：田中 一成（大阪工業大学）  
Tel : 06-6954-4293, E-mail : gisa@civil.oit.ac.jp

<中国支部>

支部長：広島工業大学 岩井 哲  
Tel : 082-921-5486, E-mail : s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp

<四国支部>

支部長：香川大学 野々村 敦子  
Tel : 087-864-2146, E-mail : nonomura@eng.kagawa-u.ac.jp

<九州支部>

支部長：九州大学 三谷 泰浩  
Tel : 092-802-3399, E-mail : gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp

<沖縄支部>

支部長：琉球大学 宮城 隼夫  
E-mail : miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp

連絡先：有銘 政秀（㈱ ジャスマソフ）

Tel : 098-921-1588, E-mail : arime@jasminesoft.co.jp

## ■編集後記 ■

東日本大震災から2年が経ちました。発災直後の77号、1年後の81号と編集担当をさせていただきましたが、毎年この季節になると、あの日の出来事を思い返してしまいます。被災地の一日も早い復興を願っております。

東日本大震災での経験や蓄積されたデータをもとに地理空間情報を活用した災害対応支援のスマートフォンアプリやWebサービスがいろいろと開発・提案されています。災害時に本当に使えそうなものから、とても使えそうにないものまで玉石混合状態ですが、これまでの常識にとらわれない発想で開発されているものが多く、次の災害時には新たな対応行動が見られそうです。（畠山満則（京都大））

## 地理情報システム学会ニュースレター

第85号 ●発行日 2013年3月28日

### ■発行

### 一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル4階

TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org

URL: <http://www.gisa-japan.org/>

### ■ 弥生雑記 ■

最近、電車内の座席で穏やかに、そして楽しそうに本を読んでいる銀髪の方をよく目にすることになった。現役世代では無い。朝晩のラッシュ時にはさすがに見かけないが、男性のときもあれば、女性のこともある。その横顔はフラゴナールの「読書する女」さながらで、こちらも吊革につかまって文庫や新書を広げている手を休め、ついつい見惚れてしまうような雰囲気を醸し出している。時折、指で頁を繰る様子が、何とも優雅だ。

実は、その方が手にしているのは、タブレット。文字の大きさを自由に変えることが出来るので、本から離れがたい層が利用しているのだろう。個人的に電子書籍については疑問もあるが、車内で目にしたその使われ方は、非常に素敵だと感じている。

「本を読んで、結果的に楽しかったというのは結構。でも、趣味にしてはダメ。読書は、義務です」と言われたことがある。新年度、忙しさにまかせて読書を怠らぬようにしよう、学ぶことに謙虚あれ、とタブレットに夢中な方々を目にしても、思わず反省した。（学会事務局）